

令和3年度東郷町地域支え合い協議体の活動報告

1. 地域支え合い協議体の進捗状況

愛知県の生活支援体制整備助言者派遣事業を活用し、公益財団法人さわやか福祉財団長瀬純治氏を助言者として、協議体の見直しを行った。

【第1層協議体】

令和3年6月に生活支援体制整備事業について、初心に立ち返り、構成員の共通認識を図ることを目的として、愛知県主催 Web 研修「生活支援体制整備事業の制度説明」を協議体構成員で受講。

研修を受講した結果、協議体の運営について見直しをすることとし、第1層協議体としては休止中。

【第2層協議体】

令和3年7月上旬 第1層協議体の運営見直しと第2層協議体の立上げに向けて、助言者に相談。

令和3年10月下旬 町、地域包括支援センター、社会福祉協議体で協議体をコアメンバーとして、協議体について共通認識を持つため勉強会を開催。

令和3年12月上旬 第2層協議体を立ち上げるため、住民向け「地域支え合い勉強会」の開催に向け、地区のキーパーソンに説明及びヒアリングを実施。

令和4年1月24日 住民向け「地域支え合い勉強会～協議体とは何か～」を開催。自治会長、民生委員をはじめ、地域で主体的に活動されている方に関係者が声掛けをし、小規模で開催した。（参加者23名）

勉強会終了後、興味を持った参加者には、第2層協議体の構成員として活動をしてもらう。
（北部圏域：8名、南部圏域：10名）

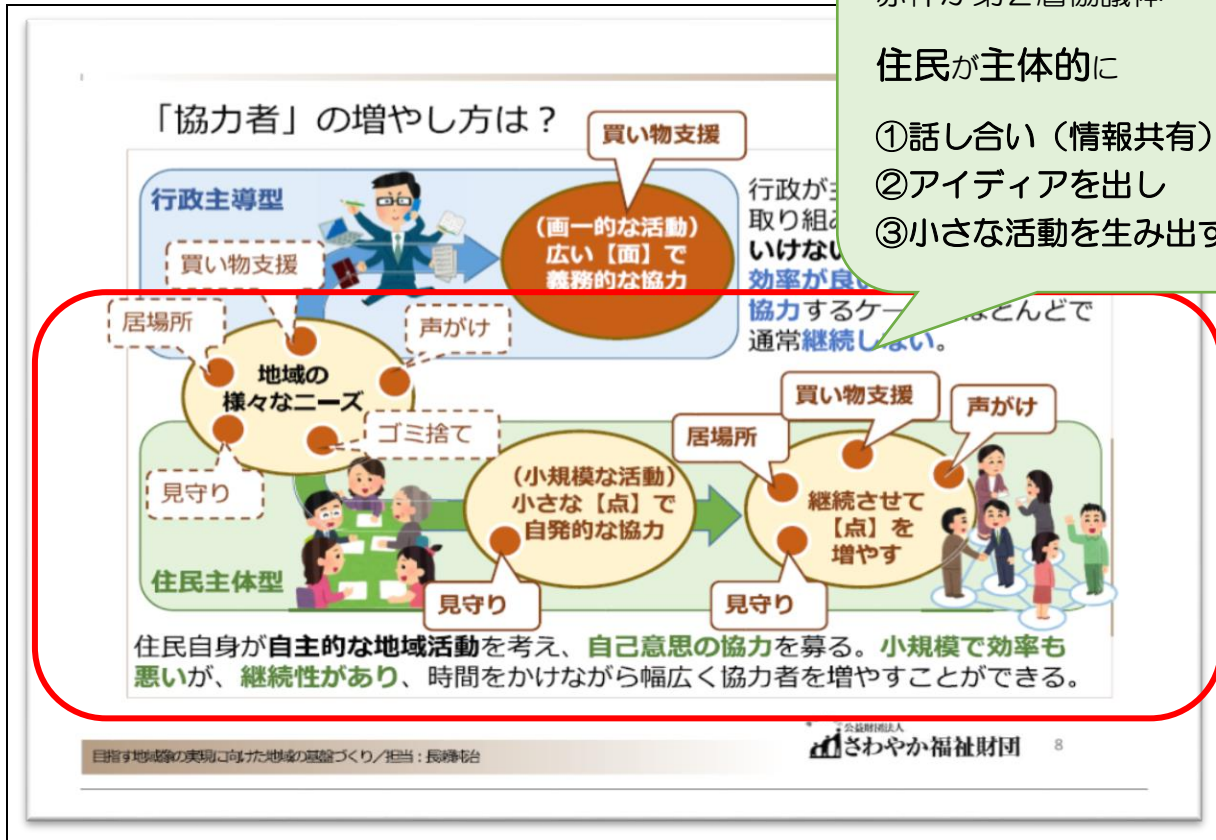
令和4年2月 各圏域（北部及び南部）にプレ協議体を立ち上げた。
前回の勉強会の振り返りをはじめ、メンバーの自己紹介を中心に意見交換を実施。次回開催日程等について決定した。

令和4年3月 第2回プレ協議体の開催。

協議体終了後、コアメンバーで協議体の情報共有を行い、共通認識を持つよう努めている。

令和4年4月以降 月1回、各圏域（北部及び南部）で協議体の開催を継続。

参考 協議体とは？



2. 令和4年度の目標及び方針

(1) 各圏域（北部及び南部）での第2層協議体の継続

月1回、定期的に協議体を開催。住民主体で協議体が運営されるよう、見守り及び軌道修正をしていく。住民の情報共有から、小さな活動が生まれることを期待する。

7月頃に、両圏域の協議体が集まり「協議体交流会」を開催予定。各々の協議体が、進めていく上での行き詰まりや悩みの共有や、進捗状況の報告の場とする。

(2) 介護保険外サービス情報冊子「暮らしの応援ガイドブック」の見直し及び再発行

主に高齢者で生活にちょっとした支えが必要になった人が、知っているると便利で役立つ情報をまとめた「暮らしの応援ガイドブック」を令和3年3月に発行した。今年度は、情報の更新を行い、より多くの人に活用してもらえたいことを目指す。

(3) 通いの場冊子の作成

町内にある住民主体の通いの場をはじめとする情報をまとめ、コミセンや病院、薬局などに設置をし、住民に向けて通いの場の周知を目指す。併せて居宅介護支援事業所やデイサービス等の介護保険事業所などにも配布することで、専門職が通いの場の情報を知ることができ、通いの場へ繋げやすい環境を整える。

(4) 地区等の各団体への支援からの地域づくり

地域支え合いコーディネーターは定期的に地区に出向き、情報収集を行っている。この情報を基に、地区等の既存の活動または新規の活動の支援を継続的に実施する。